

令和7年度中学生 海外派遣事業パネル展

展示期間

2026年2月3日(火)～2月22日(日)



Created by Jenny Kent, First Nations contemporary artist with a diverse multicultural heritage.

This artwork was developed by Australian First Nations artist, Jenny Kent, from Manamana Dreaming. Jenny has First Nations sovereign heritage from South East and Central Queensland and shares kinship with sovereign peoples from North West Queensland regions.

The artwork incorporates representations of the Moreton Bay region's Indscapes, Ranges and bays, as well as native flora and fauna such as the koala, native bees, flowers, eucalyptus and grasses.

The five stars represent Council's Corporate Values which are integrity, Respect, Service, Sustainability & Teamwork. While the eight Eucalyptus leaves represent the eight key steps identified for developing City of Moreton Bay's Reconciliation Action Plan.

このアートワークは、オーストラリア先住民アーティストであるManamana Dreamingのジェニー・ケント氏によって制作されました。

ジェニー氏は、クイーンズランド州南東部および中央部にルーツを持つ先住民の主権的な血統を有し、クイーンズランド州北西部地域の主権的諸民族とも親族関係を共有しています。この作品には、モートンベイ地域の景観、山並み、湾、およびコアラ、在来ミツバチ、エミュー、カンガルー、ワラビー、ゴアナ、野生のベリー、種子、花、ユーカリ、草などの在来の動植物が表現されています。

5つの星は、評議会の企業価値観である「誠実」「尊重」「奉仕」「持続可能性」「チームワーク」を表し、8枚のユーカリの葉は、モートンベイ市の『Reconciliation Action Plan（和解行動計画）』策定のために特定された8つの主要なステップを表しています。



制作者ジェニー・ケント氏とモートンベイ市ヒーダー・フラナリー市長

A collage featuring the Australian flag and a stylized map of Australia. The flag is partially visible on the left, showing the Union Jack and the Southern Cross. The map of Australia is depicted in a light blue color, set against a background of various shades of blue and white. The overall composition is abstract and artistic.

と、朝に入学したことができた。英語を通して、夢が一つ増えました。それは、オタリアへ来たことで、ホストファミリーに会うことです。そして、海外の色んな風景を見てきました。そのためにもっと英語を勉強して会話をスムーズにすることができるようになりたいです。



オーストラリア モートンベイ 訪問記



うえだ あつし
上田 昊

(竜王中学校2年)

もう一度行けるなら行きたいと思うほど



僕はオーストラリアに行って、全力で楽しむこととはとても大切だと学びました。親元を離れてひとりになったときにこそ、人の本質が表れることを知りました。知りたいことはすぐ尋ね、分からないことは教えてもらう。そんな当たり前の行為が、とても楽しいと感じられました。それとホストファミリーがとても優しかったです。妹が見知りだと聞いていたけれど、懐いてくれて嬉しかったです。大好きなファミリーです。不安なことは確かにたくさんあったけれど、自分が成長するために、また色々なことを目標にして取り組めるような人間になるために、とても大切な時間でした。もう一度行けるなら行きたいと思うほど楽しかった時間でした。これを見て一瞬でも行ってみたいと思った人はぜひとも申し込んでください。必ず良い経験ができます。



市中学生海外派遣事業



オーストラリア モートンベイ 訪問記



かじい りこ
梶井 璃子

(小野田中学校2年)

本当に何もかもが新しいことでいっぱいでした。



私は今回オーストラリアへ訪問させていただいて、一生の思い出となる体験をたくさんさせていただきました。初めて海外へ行ったこと、英語だけで話しかけることができないこと、ホストファミリーと一緒に過ごすこと…、本当に何もかもが新しいことでいっぱいでした。私が通ったレッドクリフステートハイスクールの皆さんはとてもフレンドリーでした。通りかかったら、「Hello!」や、「こんにちは!」と言ってくださったり、私のために日本語で話してくださった人もいました。皆の元気で明るさが素敵な学校だなと思いました。ホストファミリーと過ごした時間と会話はどれも貴重なものでした。毎日、私に色々なことを聞いてくれて、ホストファミリーの優しさに心が温まりました。そして、パディのローラが道端に落ちているゴミを拾ってゴミ箱に捨てていました。また、マザーが下を向いて何かを探している人に声をかけて、一緒に探したりしました。私のファミリーは誰に対しても親切で、周りに気を配ることができる人で、尊敬しました。私のために色々してくださったホストファミリーの皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。オーストラリアの文化でびっくりしたこともあったけれど、新しく学ぶことができました。派遣を通して、夢が一つ増えました。それは、オーストラリアへまた行って、ホストファミリーに会うことです。そして、海外の色々な所に行きたくなりました。そのためにもっと英語を勉強して会話をスムーズにすることができるようになりたいです。

この海外派遣事業に携わってくださった皆さん、本当にありがとうございました。

市中学生海外派遣事業



オーストラリア モートンベイ 訪問記



いけだ たまき
池田 環希

(高千帆中学校3年)

この最高の経験を糧に、これからも成長し続けたいです。



私は、この10日間で忘れられない最高の思い出ができました。オーストラリアではレッドクリフステートハイスクールに通い、日本語教室に参加してけん玉やあっちむいてほい、カラオケなどをしました。ハイスクールでの一番の思い出は遠足です。さまざまな動物と触れ合い、コアラとハグをしたりして、たくさんの友達ができました。ハイスクールの自由でのびのびとした雰囲気のおかげか、とても優しくてフレンドリーな人ばかりでした。放課後はホストファミリーと過ごしました。笑い声の絶えない仲の良いファミリーで、たくさんの場所に連れて行ってくれました。沈んでいく夕日を見ながら海沿いを散歩したり、賑やかなマーケットに行ったり、親戚みんなで集まってバーベキューをしたりして、最高の毎日でした。

大好きなオーストラリア、ホストファミリー、私達を支えてくれた全ての方に、感謝の気持ちでいっぱい입니다。この最高の経験を糧に、これからも成長し続けたいです。



市中学生海外派遣事業



オーストラリア モートンベイ 訪問記



きぬがわ うりん
衣川 初凜

(厚狭中学校2年)

異文化に触れることで自分の常識が変わりました。



私はオーストラリアでかけがえのない素晴らしい体験をさせていただきました。自分から話しかけることの大切さを学びました。自分の夢のための勉強をすることができました。社会の常識やルールを知ることができました。また、オーストラリアに行く前にも市役所の方やこの事業に関わられている方、学校の先生ではない大人と話すことで得られることも多くありました。一生の思い出ができました。オーストラリアの友達ができました。思い切り楽しむことの大切さを知りました。自分の思いを伝えることの難しさや大切さを知りました。言わないと伝わらないということを再認識できました。異文化に触れることで自分の常識が変わりました。英語が前より好きになり、もっと上達したいと思うようになりました。

本当に楽しくて素敵な10日間でした。ありがとうございました。





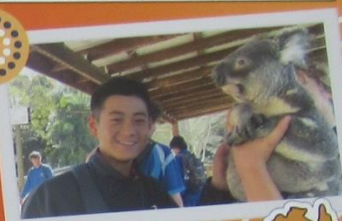
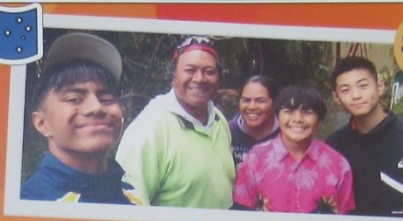
オーストラリア モートンベイ 訪問記



みと なおき
三戸 尚己

(厚陽中学校2年)

オーストラリアの生活は新鮮で毎日が驚きでいっぱい



僕はこの中学生海外派遣でたくさんの貴重な体験ができたと思います。初めての海外で戸惑ったこともありましたがホストファミリーや周りのみんなが助けってくれて最後まで生活できました。ホストファミリーとは最初は何を話せばいいかわかりませんでしたが、日本も海外も同じで、自分の好きなことや相手の好きなことなど自分と相手の情報を共有することがコミュニケーションの始まりだと思いました。そして、ホストファミリーはスポーツがみんな好きでした。僕も体を動かすことが好きで気が合いそうだと思いました。この海外派遣での僕の目標は、海外の人や文化に触れて視野を広げたり、コミュニケーション能力をつけるということでした。この目標をクリアするために僕は何回か作った事がある風作りと得意なスポーツを活かそうと思いました。目標でもあった文化交流はゲームやその他の遊び、スポーツなどでの文化交流は、風作りをホストファミリーの子供二人としました。祖父がやっていて教えてくれたので僕も二人に教えながら風作りをしました。作りながら絵をかいたり、飛ばしたり、いろんな楽しみ方があって、親しみやすいものだと思います。一緒に作れてよかったと思いました。風を作るときは絵などに好みや性格が出ていて面白く感じました。そして、僕がオーストラリアでのホームステイで印象に残ったことは食文化です。日本は朝昼晩の三食ですがオーストラリアはそれと別に二食ぐらい食事がありました。そして、毎回すごくボリュームでお腹がいっぱいになりました。僕は日本の食文化に慣れていたのですごく驚きました。ハイスクールの休み時間では、体育館でバレーなどをして仲良くなれたと思います。ホストファミリーとの関わりについては暇な時間にダンスのハカを教えてもらったりゲームをしたりしました。夜にマシュマロを焼いて食べたのはすごく美味しかったです。ハカには色々種類があるそうですがその中で一番簡単なハカを教えてもらいました。このようにオーストラリアの生活は新鮮で毎日が驚きでいっぱい面白かったです。僕はこの海外派遣のことを振り返って最初からもっと積極的にいけばよかったと思いました。そしたらもっと話せたりしたのではないかと思います。また会う機会があれば会いたいです。



市中学生海外派遣事業



オーストラリア モートンベイ 訪問記



ほしの ひかり
星野 光璃

(埴生中学校3年)

自分の将来への新たな道を拓くことができました。



私はこの派遣事業を通して、

- ・完璧な英語を話せなくても、人と人は繋がりがあえること
- ・英語を話す楽しさ ・国を超えた関わり ・自己肯定感の上昇

を経験することができました。正直に言うと、私は英語が得意ではありません。むしろ学校で勉強する英語は嫌いです。伝えたい内容によって文法も変わるし、何より、英語を覚えるのがすごく苦手で、どんなに頑張って単語練習をしても、やり方を変えても、中々覚えることができません。そのため、筆記試験は本当に苦手です。英語の発音も、アクセントが付く部分が当たり前だけど、全単語で違うし、うまく発音できている子がいたら、「羨ましいな。でも、私にはできないだろうな。」とマイナスでネガティブな気持ちになることが多かったです。現地に着いて、最初のうちは、文法や発音に自信がなく、口頭で伝えるのではなく、翻訳アプリを使って伝えて過ごしていましたが、翻訳アプリはあくまでも機械で、伝えたいことも間接的に伝わってしまうし、何よりも私の言葉で伝えられないのがとても悔しくなってきました。それから、私は、「文法が違って、発音が多少おかしくても伝えたいことは最大限自分の力で伝えたい。」と思うようになりました。そう思い立った日から、毎日色々な人に挨拶したり、学校でも、ホームステイ先でも、たくさん英語で会話をしました。滞在6日目頃になると、「ここにいると、英語をたくさん話したくなる。」そう感じるようになりました。結局最終日になっても、完璧な文を話すことはできなかったけど、オーストラリアの子たちも私の英語を、頑張って聞き取ろうとしてくれました。自ら話すことで自信がついたのが、私の経験の中で大きなポイントとなりました。日本にいても、英語を話すことがとても楽しくて、日常生活でもたまに英語で話したりします。私は今回の経験を通して、自分の将来への新たな道を拓くことができました。これからこの派遣事業で学んだことを最大限活かして人生を歩んでいきたいです。

山陽小野田市 市民活動推進課

～コメント～

今年度で30回目となる友好都市オーストラリアモートンベイ市への中学生海外派遣事業。友好親善と相互理解を深めることを目的に、広い視野と国際感覚をもった次世代を担う人材を育成するため、夏休みに実施しています。今年度は令和7年7月30日から8月10日までの12日間、中学生6名と引率者2名を派遣しました。ホームステイをしながら現地のハイスクールに通い、本市の親善大使としての役割を担い活動しました。言語も生活も異なる地でたくさんのことを学び、貴重な体験となりました。

